

議事録

項目	水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会 合同部会 (第7回 環境部会、第6回 アクティビティ・マネジメント部会)	
協議日時	平成31年2月4日(木) 14:00~16:00	
協議場所	熊本市動植物園 緑の相談所 2階会議室	
協議者 (敬称略)	<p>【環境部会】 熊本大学大学院 先端科学研究部 環境保全分野 准教授 皆川 朋子 (部会長) 熊本県立図書館 学芸調査課 課長 丸山 伸治 (一社)熊本市造園建設業協会 水前寺江津湖公園サービスセンター所長 中島 憲久 熊本県文化協会 理事 轟 多朗 (欠席) 熊本記念植物採集会 副会長 奥村 智治 熊本野生生物研究会 事務局企画担当 歌岡 宏信 自然観察指導員熊本県連絡会 事務局長 田畑 清霧 日本野鳥の会熊本県支部 副支部長 坂梨 仁彦 水と緑ワーキンググループ 代表 大住 和子</p> <p>【アクティビティ・マネジメント部会】 熊本大学大学院 くまもと水循環・減災研究教育センター准教授 星野 裕司 (部会長) 公益財団法人 熊本市美術文化振興財団 理事 葉山 耕司 (欠席) 公益財団法人 地方経済総合研究所 主任研究員 藤田 英介 キリン株式会社 CSV 戦略部 絆づくり推進室 (熊本復興支援担当) 古賀 朗 株式会社スノーピーク地方創生コンサルティング シニアマネージャー 若松 隆一 (欠席) 協業組合江津湖観光 マネージャー 江藤 啓貴 (欠席) 江津湖貸舟協同組合 幹事 宮本 龍一 一般社団法人 熊本市造園建設業協会 理事 松本 秀和 一般財団法人 熊本市社会教育振興事業団 熊本市総合体育館・青年会館 館長 田口 八司郎 水前寺活性化プロジェクトチーム 事務局 楠本 英雄 (欠席)</p> <p>幹事 関係課、事務局</p>	
<p><議題></p> <p>(1) 前回会議の振り返り (2) 計画の骨子(案) (3) ゾーニング (4) 意見聴取方法 (5) その他</p> <p>【議事録】</p> <p>●こんにちは、よろしくお願いします。それでは次第に従いまして、議題の(1)からお願いします。(星野部会長)</p> <p>～議題(1)(2)(3)の説明～</p> <p>●ありがとうございます。それでは資料2の骨子案とゾーニング、どちらからでもいいので議</p>		

論していきたいと思います。ぜひたくさんのご意見を頂けたらと思います。お願いします。
(星野部会長)

- 広木地区の竜ノ鼻という島になった場所ですが、ここは人が立ち入れない離された島ですので、保全の非常に重要なポイントになります。人が立ち入らないように、積極的にここの管理をお願いしたい。(田畑委員)
- 前回も少しお話しさせていただいたのですが、広木地区の処理場に隣接しているエリアはとても大事な場所でカヤネズミがここで繁殖しているので、巢もいくつも見つかっていて、この地図で言うならば広木地区のエリアの中に赤丸のポイントがありますが、赤丸のポイントの下2cmぐらいからずっとそのエリアあたりは、川岸に向かっていくエリアは、もちろん今でも何か清掃の時に出たごみをそこに捨てておられたりとかそういう使い方をされていて、それはそれで結構ですが、1番カヤネズミにとっては大事な場所ですので、赤丸のポイントの下2cmぐらいから川岸にかかるエリアは一応そうした扱いで、環境保全を配慮するオレンジ色の部分をずっと伸ばしてもらいたいというのが1つです。(歌岡委員)
- 前回の資料がないのでわからないけれども、加勢川の方まで前回よりもオレンジを伸ばしていますよね。前回の議論も踏まえて配慮はしようとしていたんだと思うのですが、会議が終わった後にこうしてと言って下さい。いいですよね。(星野部会長)
- この図で、「木道で湿地の所に入れますよ」というゾーンがあります。ここは人が入れるからオレンジになっていないと思いますが、木道を作っているということは、この部分は「自然を大事にしながらこそっと見させていただける」というゾーンです。木道は人が通れるとして、その湿地の部分を含めて自然環境をきちんと保全しておくゾーン、そうしやすいゾーンだと思います。今のオレンジにここも入れて頂いて、広木地区の中にも守っていくべきゾーンを広めにとって頂くことが大事かと思います。(田畑委員)
- 広木地区のほぼ北の方に結構開けている所がありますよね。その話ですか？(星野部会長)
- 広木地区の左下、歌岡委員のおっしゃった場所の少し上、木道があるところはオレンジが入らずにぎりぎり終わっています。広木地区の左下3分の1ぐらいをごっそり保全のエリアとしていただいた方がいい。まとまったエリアとして生き物がきちんといて、そこから周りが出てきてくれる。そういう形になるのがよいのではないかなと思います。今広木地区のオレンジになっている一部は、ヨシが刈り払われて水辺に行けるエリアができてしまっています。ああすると人は行ってしまいます。しかも犬連れて行ったりすることになります。生き物たちが「人から離れて穏やかにここだけに避難していますよ」というところが消えているのではないのでしょうか。ここは集中的に保全ゾーンとして強く扱って頂きたいと思います。(田畑委員)
- 利活用サイドからみるとどうですか？環境保全サイドで言うと、広木の西側の3分の1ぐらいがごっそり保全したいとネズミとか。実際私の実感としてはここまで遊びに行くことはな

いですよね。赤点線のだ円形からも比較的離れていますので。(星野部会長)

- この場所は大勢で使う場所ではないと思うんですが、入りやすい状況にしていると、犬を連れてお散歩がかなり行ってしまいます。釣り人が軽く入れるようになりまして、そうするとその影響はとても大きいと思っています。(田畑委員)
- 確かになと思います、犬が嫌みたいですね。(星野部会長)
- 生き物をいなくする時には犬を連れていけばいいです。(田畑委員)
- 歴史的にはそうですね。利活用サイドからすると、そう大きな問題はないかなと思いますが、その方向でどうですか？(星野部会長)
- 今のご意見の中でイメージとして、丸ポツの下だと思いますが、その辺りが江津湖の花火大会等の部分で、会場となっていくところもあるわけです。(事務局)
- そういう日だけ、短期間、一時的だとありだと思います。(田畑委員)
- それはいいということですね。花火大会はちょっと気になっていまして。(事務局)
- 短期的に扱うというのは、ヨシ原が茂った分を刈り払ったり、時には可能と思うのですが、いつもというのはまずいと思います。(田畑委員)
- 分かりました。(事務局)
- 花火大会を大事にしている。花火大会の正確なレイアウトをどっかバックにとっておいてほしいです。広木地区の南西側はすごく大事なところということですね。(星野部会長)
- 広木地区の南西側の地区の話があったんですが、今広木地区の管理が画一的な管理だと思うんですね。どこを見ても同じような景色が広がっているということで。多様な環境が無いことには生息できない生き物がいっぱいいて、ここは昔いろんな植物とか、トンボとかいろんな生き物がいたんですけども、そういう生き物がいなくなってしまうところなんですね。そういう意味で多様な管理は実は難しいことかもしれないんですが、緩やかな流れがあるとか、植生がいっぱいある溝があるとか、抽水植物があるとか、親水植物があるとか、いろんな環境があって初めて生きられるトンボとかたくさんいるんです。そういうのが今ほとんどいなくなってしまう。管理する側はさっきも言いましたが大変かと思いますが、多様な環境を創出していかないと生き物というのは戻ってこない。画一的な環境だったら画一的な生き物しか残らない。その状況が今の広木地区だと思いますので、ぜひ多様な環境は大変だと思いますけれども、そういうところを目指して残して頂けたらと思います。(坂梨委員)

●それに関連して、今お話しありましたように広木地区はそういう感じの整備がなされているんですけども、奥の方には自然観察所、木道があって、鳥が観察できたりする場所がありますよね。そこには今おっしゃったトンボ、「こういうトンボが成育しているよ」という、生物の情報の展示はしてあるのですが、結局そのエリアは全て外来種で覆われてしまっています。生物多様性の保全という観点から折角整備されているので、再整備してここに書いてある通り、両方が例えば環境教育の場所としてもすごく有効であると思います。そういった方向で両方整備をしていただければと思います。あのままほっとくと全て、今でもナガエツルノゲイトウやブラジルチドメグサで覆われてしまって、先日木道のところを全て歩いたんですけども、ほぼ全てがそういう感じで外来植物を見る木道みたいになってしまっています。アクティビティや自然観察会などの拠点にもなると思うので、できたらそういうふうな場所として整備を望みます。本当はもともとそういうマインドをもって整備された場所でもあると思いますが、今は外来種が多くかなり乱れている現状だと思います。(皆川部会長)

●整備の時に面的な整備じゃなくて、例えば点であったり、線であったり、そういう細かな気配りというか、心配りがいると思うんですけども。ゾーニングというのは面で話をしていきますので、その面はどうだこうだという話しになっていきますが、実はその面の中でも、線的にはどうだとか、点的にはどうだとか、という話しがあると思うんですけども。そういう細かいところまで詰めていかないと、本当の整備は出来ないんじゃないかと思っています。(坂梨委員)

●広木に関しましては、外来種問題が江津湖トータルで問題になっており、現実的に非常に難しい問題だと思います。熊本に本来いる生き物、それを地域の方々に知っていただく、また本来の生き物がきちんと生き延びていけるという場所にするには、放置ではなくかなり手を入れる必要がある。だから江津湖の広いエリアに関しては現実的にとても難しい。広木のこのエリアは江津湖とは水面も異なりますので、管理が大変しやすい。ここからだけ駆除をし、ここだけはきちんと保存する。そしてここに関してはエリアが限定的なので、集中的に人間の力を入れることが可能。木道があったりということで、その状況を傷めずに観察することもできるという非常にいい場所だと思います。そういう意識で、ここを優先的な何かポイントにする。うまく整備が出来た場合には、公園の広い遊びのエリアの方から人々が来ることも可能になる。合わせまして、今、坂梨委員から線的なとありましたが、広木の中には何箇所か湧水ポイントがあります。そこから細い小川が流れております。以前はその小川のところの周りには植物があって、日陰の中を水が流れていて、小動物が結構いて、人が行くとカモが飛び交っていたりしたのですが、最近は周りが何もなくなりまして、日当たりのいい排水路的な水路になってしまいました。水が流れるところに関しまして、木陰というのは人間にも必要ですが、生き物にも必要です。目隠し的な意味合いも必要です。水が流れる水路を優先的に扱っていただきたい。この広木は江津湖自体がトータル大事なポイントですが、その中でも特にモデル地区になる場所ではないかと思っています。ご活用いただけたらと思います。(田畑委員)

●私、高校生を連れて広木はよく採取に行くんですけども、水路の魚はほとんどティラピアばかりになっています。細かい水路が公園の中にあり、そこにいるのはメダカではもうないんですけども。それとカメはアカミミガメ。本来的にはイシガメなんかに来てほしいし、それを

子ども達にも見せてあげたいなと思う様な環境でもあります。先ほど田畑委員がおっしゃったような形で環境の保全を目指すのであれば、そういう外来種を1回取り除いて、もちろんたくさんのザリガニもおります。そうしたものを除いて、そういう在来の生き物がいるメダカが泳いでいるような、カメがいるような場所をここに復元して、それを子ども達に見てもらえるような大事な環境学習の場所にする、と、すごく生きてくるかなと思っているんですね。私は子どもとよく凧揚げに行きます。広木は凧揚げにはとてもいい場所です。しかし、一番端っこの南側の3分の1のエリアは別の可能性もある。そうした利活用ができるような目的をはっきりさせていけば、いい場所によみがえってくれると思うので、ひとつ計画に入れて頂ければと思います。(歌岡委員)

●ありがとうございます。今日の目的は骨子案をつくることですので、それと関連させて言うと、例えば骨子、A4の方の基本方針2ですよね。今の話しは、考え方としては、基本方針2に入っているということと、取組み項目の②-2 自然環境の保全再生というところに入っていて、そのあり方を今ご議論いただいたという理解でいいですか。まず、ここに載っているかどうか大事なんですよ。私はそういうふうに理解して、7ページの②-2 自然環境の保全再生のやり方として、こういうことをやってほしいと、施策事業イメージを今言ってくれたという理解でいいですかね。大丈夫ですか。イメージにも1個それに近いようなものを入れておいてほしいというのはあるかもしれません。今議論したような、点とか線とかということで言うと、私は環境専門家ではないので、正しい言葉遣いがわからないのですが、ミクロな環境のセットみたいなものを再生しましょうというご提案なのかなと思ったんですけども、だからそういうのを1個入れておくといいかなと思ったのが1つです。備忘録的にもあくまでイメージだから全部やるということではないし、どうやるかは今後の議論になるので、今の「水があって、木陰があって、というセットを復元します」みたいなそういうのが、骨子の7ページの施策事業イメージの中に1ついい写真を提供してもらって、そんなふうに対応した方がいいのかなと私は思っています。(星野部会長)

●今のお話になられている文脈で行くと、生き物の用語でいえば「ハビタット」と言います。「多様な生き物のハビタットを配置する、用意する」そうした言葉で、表現ができるかと思えます。(歌岡委員)

●それは十分施策方法にはなると思えます。(星野部会長)

●そうですね。これまでの部会で議論した中でやはり外来生物等の増加、星野部会長がおっしゃって頂きましたように基本方針の柱立てをして、施策の取組み項目の柱にしたところがございますので、その中身については今後もアイデアを聞きつつ、並行で議論していく中身だと当然ながら思っているところで、私としましてはちょっと今写真で入れる部分と、確かに広木にはコメントが足りなかったかなと、配慮が足りないのかなとは思いました。(事務局)

●1つは資料をもう少し修正した方がいいかなということと、ゾーニングも大草原ゾーンだけでいいのか、〇〇と大草原ゾーン。人間側からしては大草原は残したいは残したいですよ。やっぱり広木として大事なので。大草原と〇〇ゾーンでもいいですし、少し言葉を追加し、

ここは環境系の言葉がなかったので、今のお話のようなものを追加したらいいかなと思います。(星野部会長)

- 広木トータルとして大草原と生き物の再生ゾーンとか、生き物保全ゾーンみたいな形でしてほしい。(田畑委員)
- そこだけ再生するみたいになるので、ちょっと違う方がいいかもしれないですね。(事務局)
- 多様な環境があるっぽい、大草原一様じゃなくて、縁にはこう豊かなということで。(星野部会長)
- 生き物観察みたいな表現でもいいとは思んですけどね。(皆川部会長)
- ヨシ原という言葉を使って頂くのが大事な。ヨシ原という言葉を入れて、草原もあればヨシ原もある。その他もあるけど大きく目玉はこの2つという扱い方もいいかなと思う。(田畑委員)
- 広木こそが、その休日とか家族連れがたくさん集まって、人と自然の共存、共生という一番のモデルというか、そういうところだと思いますので、大草原と環境が相まみえるというか、織りなすというのかわかりませんが、そういったフレーズでいくといいかなと思います。なかなか難しいですね。(事務局)
- こういうところで言葉や名づけなんていうのはすぐに出るものじゃないので、「大草原と〇〇」を部会長としては両方への宿題ということで、ちょっとここにゾーニングと説明は次の協議会までに今のを踏まえて少し修正してくれるといいかなと思います。(星野部会長)
- 生物の情報の看板があるのって、あそこはすごく力を入れているところだったんだと思うんですね。たぶんもともと県の方がそういうコンセプトで設置されたんじゃないかなと思います。(皆川部会長)
- 県の方が設計されていた時に雑談をした際の記憶です。あの中に人がしっかり歩く大草原ゾーンはもちろんいるんだけど、人が全く立ち入れないようなゾーンをつくる、そうするとその間に触れ合えるゾーンができる。だから完全な2つというよりも、人が立ち入れないゾーンをきちんと中に確保することで、そこをベースに生き物が出てきてくれて、人の出入りのゾーンとその間のゾーンで観察がいっぱいできるという、広木地区の中で3段階くらいのゾーニングを当初してあったと思います。(田畑委員)
- 今回はあくまで骨子で、具体化していくにはこんなのでは整備も何も出来ないの、そういう議論をどんどん積み重ねていくことが必要なかなと思います。ちょっと広木地区はオレンジの範囲と名称と大草原は残していいので、環境の豊かさだったり、自然観察というキーワードを想起できる名称と、それとリンクした説明ですね。活動イメージにも自然観察とか

そういうものを入れていただくと。自然観察会に参加しと、活動イメージには入っていますよね。そうしましょうか。その他どうですか（星野部会長）

- 今更なんですけれども、庄口地区というのは熊本の地下水を考えた時にとっても重要なところで、もともと高層住宅が建つ予定だったところを熊本市が買い取って守られたので、今、健軍水源地が無事なのはこのお陰がかなりあるんじゃないかと思っています。ですから、ここが運動ゾーンという認識しかないのはちょっと困るので、ここが地下水保全の重要なところだということをここにに入れていただかないといけないと思っています。庄口の入口は、そのために買い取ったお陰で公園になったといういきさつがありますので、ぜひよろしくお願ひします。（大住委員）
- 表面的には運動エリアという形ですが、背景にはそういう地下水の保全ということがあるんだというところを下の記事の中にでもしっかり書き込むというところかなと思います。だから、ここでそういう経緯を忘れて開発みたいなことをされたら、それは一番アウトだということですね。そういうことがないようにということが大事です。（星野部会長）
- 関連ということでその庄口地区ですけれども、そこは一番北側は電車通りに面しているところになります。私はこの30年程、電車通りのすぐ北側のところの家にタヌキがやってくるのを高校の生物部の子ども達と観察会をやっておりました。実はここで切れている形になっていますけれども、自然環境としてはつながっているのが、庄口地区から北に伸びている谷でございます、50年前にはそこにカヤネズミの巣があったことも確認しております。実はずっとつながっていて、水もそちらの方から民間の土地になっているんですかねそちらは。（歌岡委員）
- 電車通りを越えてですか。（星野部会長）
- もとはそっちの方にも池や湿地があってというような歴史的なそういう場所なんです。今はもう活用はできないかもしれませんが、そうであれば先ほど大住委員がおっしゃったような形でその庄口地区についてもそうしたものがあっていうものを活かしながら水に触れたりとか、生き物に触れたりとか、川が流れているところだけでも意識できるというか、楽しめるというかそうした形で、もちろん運動ができるエリアとして、今すばらしい公園になっていますので、それは活かしながらも水が流れるところについては水資源を活かし、生物資源を活かした取組みが来ると、きっといい場所になると思います。（歌岡委員）
- なかなか具体的な施策をどこまで展開できるかは別で、すぐやりますとは言えないと思うんですけれども、地下水を保全するために開発を抜いたこと、あるいはその環境のネットワークからするとすごく大事な、より北側から江津湖にかけてのネットワークがすごく大事なところで、湧水があって水路もありますもんね。そこら辺の環境的なキーワードというか、少なくとも文章の中にはしっかり入れ込んでいくということがまず今のレベルでできることかなというふうには思います。はい、その他いかがですか。（星野部会長）

- 細かなところで申し訳ないんですけども、5 ページ目の 2-1 の計画概要ですが、フォントが小さくて見にくいかなと、②の円グラフなんかはなかなか何て書いてあるのか見えにくいということと、写真のキャプションのフォントも小さいし、これにカッコがいるのかなというのは思います。二重カッコになっていますし、キャプションをもっと大きくしてカッコをとっていいんじゃないかなと。これずっと他のところにも続きますけれども、7 ページ目だとか 8 ページ目だとか同じようにキャプションにカッコが付いているので、二重カッコになって、非常に見にくいかなと思います。それと、ついでにすみません資料 3 のところ希少動物の巣作りと出水地区にありますけれども、これは一番ダメなことです。希少動物の巣作りなんて見ていたら、希少動物は絶対にいなくなると思いますので、一番デリケートなところを覗いてはダメなので。(坂梨委員)
- まあ見るというのは、そういうことも起こっているエリアですよということが書きたかったんだよね。ジロジロ見たいわけではないんだよね(星野部会長)
- カワセミはですね多分繁殖していないと思います。細かいこと言うときりがないんですけど、ひざ下まで服をめくってて、ズボンかなと。(坂梨委員)
- ズボンを捲り上げてみてくださいとのことです。カワセミ云々嘘があるのはまずいので、ただ環境的には豊かさを書きたいですね。ここは市役所内でもいいですけど正しいことを探して書いてください。市役所内でも知っている人いますよね。あるいは、聞いて書いてください。あと、今日の資料は部会だから資源節約で小さくなっているんでしょ。(星野部会長)
- すみません。A4 で打ち出せばよかったんですけど。先ほど坂梨さんにいただきました分ですね。大体は A4 を横にしてですね大きな字で皆さんに見ていただきたいという形でそもそも作りこみをしています。それを 2 アップにしてしまったのでこのような形になってしまったのですが、骨子を市民の方々に説明をするときは A3 のペーパーに落しかえをしたいと思っています。A3、3 枚になるのか 4 枚になるのかボリューム次第で考えたいと思いますが、ご指摘の通り字が見つらいという部分については、そうならないように配慮したいと思います。ありがとうございます。(事務局)
- 歌岡委員から庄口エリアのところ、エリア外のところまでとございましたけれども、江津湖、特に上江津に多いと思いますが、江津湖エリアの外側の私有地でかなり水が湧いているような御宅とかエリアがいっぱいあります。そこから綺麗な水が入ってきているというのも、江津湖トータルの湧水の確保という面では重要になっているんじゃないかと思います。折角庄口地区なりなんなり話が進むのであれば、湧水でそのまま江津湖に流れ込んでいるような近隣の民間の土地にもネットワークを組んで協力をお願いします。そういうことができると、周辺の方とのいろんな関係もよりよくなるでしょう。全体をひっくるめた整備を、周辺とのネットワークづくりも、計画の中のどこか入れやすい部分に入れて頂けるとより良いのではないかと思います。(田畑委員)

- はい、ありがとうございます。先ほどの議論と同様にまず、骨子の方で7ページですね。①-1 豊富な湧水の保全・管理対策の一環と言えるかどうかで、言えますよね。具体的なすぐ行政的には難しいことだと思いますが、理想的な形としては周りの民地の湧水も含めた保全対策みたいところに踏み込めると、すごくいいんじゃないかというご提案ですね。やれる、やれないは絶対言えないので、ただ議事録には書いて頂いて、今後の施策の一例として、アイデアとしては保存しておいてほしいなと思います。(星野部会長)
- 今と関連なんですけれども、ゾーニングの地図の出水地区と書いてあるところがありますよね。地図の真ん中より上、水前寺の下のところですね。その水路は湧水がいっぱい出ていまして、とてもいい水路です。そうした場所も、江津塘と呼ばれる道路のすぐ隣になるんですけれども、その辺でも水はいっぱい湧いています。この前の地震の時も井戸があって、水道がなくても大丈夫だったんですよ。出水地区あたりにも湧いているし、周辺地区の湧水、まさに宝のような場所なので、そうしたものも含めて用水路の入口もきれいです。ところが、その中にティラピアがいたりします。そのティラピアがいるのは江津湖に流れていって、折角駆除していますが、その周りの用水路にもたくさんいたりするというのが、よく分かっている事実なので、そうしたところを含めて課題はあるんですけれども、地元の方と一緒に取り組む中でできることもあるかなと思います。環境共生課の方は近くのもの、出水や上江津の水路の中にあるティラピアの除去についても地元の方と一緒に長年やっておられます。こうしたことも、とても大事な江津湖に関わる取り組みだと思いますので、併せて行われていくことを期待したいと思っています。(歌岡委員)
- 資料3のゾーニング(案)のところ、最初の説明では水前寺地区とか出水地区を重複させた形でということとおっしゃられていましたけれども、庄口地区と下江津地区のところは切れているんですが、そこは意味があるんでしょうか?(観光政策課)
- こちら、一体性というのは大事になってきますし、動物園の正門への入口というところになりますので繋がりは持たせていきたいと、図の方を修正したいと思います。(事務局)
- 動植物園と江津湖の間がダブル線みたいになっていて、間が白く抜けている。一体性を持たせるためにまとめた方がいい。(星野部会長)
- そちらについても図を修正します。(事務局)
- 4ページに水前寺江津湖公園のポテンシャルという言葉が使っているんですけれども、この資料をどれだけの方に見て頂くかという想定もあると思うんですけれども、ポテンシャルという言葉が使われたときになかなか分かりづらいいかなというのがあります。思っている以上に地域の方々はカタカナとか横文字にまだまだ抵抗感をお持ちですので、何かいい言葉があれば変えて頂いた方が伝わりやすいのかなと思います。(東部まちづくりセンター)
- そうですね、直訳すると潜在能力とか、資源がいいかな。でも資源だと固いですよね。(星野部会長)

- 基本理念にはポテンシャルを入れさせて頂いて、そのポテンシャルとは何だということですよ。直訳すると潜在能力とかになるんでしょうけれども、江津湖の持つ資源であったり魅力であったり、そんな話を流れるにはしていくと思うんですが、例えば、3 ページ目の基本理念のところに注釈を入れさせて頂いて、魅力とか資源というふうに入れさせて頂いて、4 ページも同様というふうな形で、カタカナは残してきちんと注釈を入れるというような形で対応したいと思います。(事務局)
- 実際これも一応配慮していて、どうしても最近の計画はカタカナが多くなってしまったので、用語解説みたいなものを最後に付けたりはしているんですね。今みたいな対応がいいかなと思います。はい、他ございますか。(星野部会長)
- 庄口地区、先ほど言われた川沿いですね、小川が流れているということと、庄口地区の川沿いのところとそれからずっと動物園の入口まで、あのあたりも環境保全を配慮するエリアとして、オレンジにしなくてよろしいんでしょうか？(田口委員)
- ゾーニングの環境保全を配慮するエリア、という言い方が私は気になっているんですよ。それは全部だろうと。環境保全に配慮する、日本語的には「保全に配慮」するんだと思うんですけども、それは私は全部かなと思うので、ここで指示したいのは、特にとか優先するだとか、そんな感じですよ。むしろ、そこまでの定義にして環境保全は全体だと考えた方が、オレンジというのは結構強いメッセージを持つと思うんですよ。それが全部になってしまうと、意味もなくなってしまいます。(星野部会長)
- 動物園の入口のところがホタルの生息地とか書いてあったみたいですけども。(田口委員)
- ポツンとあってもいいかもしれないですが、基本的には保全に配慮のところは全部だと思っているんですよ。(星野部会長)
- 今おっしゃっているようだと、この地図上の配慮は優先ぐらいの言葉の方が間違いないだろうと思います。(田畑委員)
- そう思いますね。利活用的な視点を含めて、意味を強くして範囲を小さくする方が、私はいいと思うんですよ。計画としての意義はですね。だから議論せず全部塗ってしまうと、有名無実になってしまう方が、計画としてはダメだと思うので。少し話は飛んでしまいましたが、ホタルとかその辺はどうですか？(星野部会長)
- 今の段階では、分かる範囲での保全とか復元とかを考えられるエリアは、塗っておいた方がよいかと思います。どこかに書いておかないと継承できないと思いますので。細く、小さくても、線であってもあった方がいいかなと思います。(皆川部会長)

- 動物園の、この図で言うと東側になる庄口から下江津に繋がるところの水路はいい水路だと思います。(田畑委員)
- そういうのが、スーッと入っていてもいいのはいいですけどね。(星野部会長)
- 庄口地区の部分については、大住委員から最初ありました通りに、市川会長の方からもここでたくさんの湧水が湧いていると情報提供頂いて、今回湧水スポットを落としたといったところでございます。今、田口委員からもございましたので、線としてその何かしらやはり庄口公園を、公共交通の市電から来た人をいかに動植物園にスムーズに繋ぐかという部分も一つあると思います。そこにたくさんの水が湧いているというのも江津湖のポテンシャルを活かしたプロムナードづくりにもなるかもしれません。その手法も今後考えないといけませんが、共存して入れるといいかなと思います。(事務局)
- オレンジのゾーンにつきまして、最初にいいなと思いましたがずーっと繋がっているという点です。特にデリケートな場所であったり、希少種がいたりというピンポイントも大事なんですけども、生きものが岸边沿いに移動できるというのはとても重要だと思います。江津湖エリアを人間が活用するという意味で、人間の回遊性というのもあちこちにちょっとずつあったと思うんですけども、生きものも移動できなければ結果的にはいなくなってしまうたり、何かあっていなくなった時に、どこからも戻ってこれなかったりとなります。ゾーニングの意味は何であるのか、ここはなぜゾーニングで重要なゾーンになっているのかというような場所でありましても、繋がっている部分というのはそのまま生きものがずっと繋がれるようにという形での保全を是非お願いしたいと思います。(田畑委員)
- はい。ありがとうございます。その他どうですか？はい、どうぞ。(星野部会長)
- 改めて骨子案を見せて頂いて、議論がずれたら申し訳ないんですが、是非留意してもらえればという点があったので申し上げます。先程の「江津湖のポテンシャル」のところに関わってくるんですが、この会議に出るようになってから、そもそも水前寺江津湖というものの持つ価値とは一体何なのだろうということを自問してきました。その中でですね、恐らくこれなんだろうなというものはやはり、さっき「豊富で清れつな湧水」という言葉を基本理念の中に加えて頂いているんですが、そういうことなんだと思います。この地の持つ意味というのは、言葉で言えばおそらく、湧水地における土地利用の痕跡がここにあるんだと、それに尽きるんじゃないかというふうに思います。今、地図に湧水ポイントが点々とありますけれども、地図を見てみると右上の方から、台地がきて末端になって、おそらく今図書館がある場所と県庁がある場所は標高差がすごくありまして、台地の末端ということで水が湧いてくるわけです。その周辺江津湖の左下の方も、かつて広大な湿地帯が広がっていたはずなのですが、それを近世の初頭に江津塘で塞いで湧水をコントロールし、壮大な土地利用をしたと言えると思います。ところが、熊本市民の方はおそらくこれが壮大な人造の湖であるということとはあまり知らないんじゃないかなと。私も周りの方に聞いてみたんですが、江津湖が人工湖であるということをほとんど知らないんですよ。ですから、先人が水をコントロールするために壮大な努力をしてこの土地を拓いていったんだ、そういうストーリーがあることは、

熊本市民にこの計画のどこかで伝えたらどうなんだろうという気がします。自然が豊かであるとか、ここには公園があるとか庭園があるとかそういう現象面だけではなくて、何でそれが出来上がったのかという根本的なところでその価値を伝えてもらいたいなという気がします。また、そういう綺麗な水辺があったからこそ、江戸時代に、大名が邸宅、別荘を造り、庭園ができた。それから明治以降、文豪たちがここで作品を創作していった。そういうことがあるわけですから、湧水地における土地利用の歴史を体現する場所、それが水前寺江津湖だという、その価値をどこかで伝えるということは骨子の中でも触れて欲しいなと思っています。(丸山委員)

●ありがとうございます。私も最初、そうだと思ったのは、「江津塘」が一番大事なんじゃないのかなと思っていたんですよね。「江津塘」がなかったら江津湖がないので。そのことを忘れていたなと思って。ですので、すごく大切なご意見だったと思いますけれども、そういう基本理念みたいなのところにどんどん大きくなって意味が無いので、私は今日仕切っている立場からすると、どう反映させるかということを考えるんですけども、2 ページとか先程の4 ページの歴史文化資源みたいなのところに、そこの成り立ちというのは少なくともしっかり触れておくということができたらいいかなと思いますけれども。加藤清正の仕事なんだよということですよ。(星野部会長)

●今、丸山委員から頂いたご意見等についてですが、いわゆる計画として作る際、前段にはその壮大なる江津湖のストーリー的なものをしっかり入れたいなと、丸山委員に入って頂いていますので、しっかり記録として残したいと思ってはいたんですが、どこまでその辺を書けるようなものかどうか、丸山委員ともお話しさせていただいて、2 ページ目にどこまでの書きぶりができるかどうかが相談させてください。(事務局)

●確かに、おっしゃるように結構しっかり書かなければいけないので、計画書としては最初に江津湖の成り立ちみたいなのところをしっかりと語ってもらうということが大事なんですけど、骨子やエッセンスの中にも、それにリンクするキーワードは入っていて欲しいなと思います。はい、ありがとうございます。その他どうですか。(星野部会長)

●今の丸山委員からお話があったとおり、加藤清正にスタートして歴史的な一つの大きな関係として維持されてきたのが江津湖だと、皆さん認識されていると思います。この環境は人間が造って維持してきたものでありますから、人間の手が加わらないと、そのままの形では伝えていくことも出来ない場所です。それで、生物学的な立場から言うと、湖はいつか埋まって陸地化して、森になるという大前提があります。ほっとけば森になります。ですから、常に環境を維持するために浚渫を続けなくてはならないと思っています。どこかに水を守るために時々浚渫をしながら、取り去ることで水環境をかく乱してかき乱すことによって、スイゼンジノリも戻ってくるのではないかと言う話もあるくらいですから、アシなんかの環境もそうなんですけど、かく乱して時々人間の手が入ることで守られている、阿蘇の草原と同じような意味があったりします。ですから、時々触るみたいなの、そうしたところの長期的な計画、20年、40年というふうに考えたときにどこかで書いておいて頂いて、生きものが大事だから触らないでくれということを全然思っていないので、掘ることが大事だと思って

います。そういうこともどこかに、そういう環境を維持していくというか、加藤清正に始まった大事な歴史的な遺産を維持していくために掘ることも必要だと、そういうことも考えながら管理していくとか、そういう文言がどこかにあるといいかなと思います。ちょっと今みたところ無かったみたいなので。(歌岡委員)

- 今いただきました浚渫の話につきましては、これまでの協議会等でも意見を度々頂いておりました、きちんと認識はしてございます。江津湖の浚渫については、ある程度のスパンを持って行われてきたというところがありますので、今後、検討課題として当然ながら認識はしているというところでした、一つの水環境の保全だったり、外来生物の部分の中のどこかに検討課題、どういう書きぶりになるか分かりませんが、認識はしております。(事務局)
- 具体的な施策の中にちゃんと入れられるかどうかというか、入れるべきだということだとは思いますが。アクティビティ・マネジメント部会のメンバーとしてゾーニングとか、今のような議論から言うと、話がある種小さくて言いづらいこともあるんですけども。私としては、全体に水面の利用みたいなのがちょっと、江津湖なのに少ないというのが気になっていて、活動イメージを見ると、上江津のポートの上からぐらいなんですよね。水面に人がいるのは。できれば下江津とかをもう少し活性化したいなと、アクティビティ派としては思っているんですけども。例えば、サップとか分かりますかね。大きなサーフィンボードみたいなのでのんびり行くとか。ちょっと入れたいなと思うんですが、よろしいですか。(星野部会長)
- 鳥の立場から言うと、ゾーニングをして人が入らないようなところを作らないと、ここは昔一万羽を超えるようなカモが来ていたんですよ。今は千羽くらい、10分の1くらいに減ってしまっている。それというのは冬の間、高校生とか大学生がポート、カヌーとか漕いで、ありとあらゆるところにいくし、魚釣りの方がまた岸部に寄っていくものですから、カモが行くところが無いという状況があるんだと思います。今年なんですけれども、実はオオハクチョウが10羽来たという情報がありましたが、折角こんな良いところがあるのに江津湖に寄らないんですよ。そうじゃないところに寄っていくので、もしかして、もう少し環境が良くなっていくと、鳥が住みやすかったらオオハクチョウとかがいっぱい来るようになるのではないかと、そうなればいいなと思っています。(坂梨委員)
- なるほど、結構水面利用も難しいですね。今でも、鳥目線だとポートとか多いくらいなんです。(星野部会長)
- 鳥が多かった時を考えると、その頃、上江津湖はいろんなポートが出ておりますし、下江津湖もポートが出ておりました。ただ同時タイミングではなかったんですよ。上江津で人がワッと活動するときは、カモは下江津の方に避難し、下江津でポートの大会があったりすると上江津に行ったりしていました。今はどっちもです。それから上江津と下江津を繋いでいる加勢川、ここも避難場所でした。それと上江津地区と書いてある文字より上くらいの川沿いのところも避難場所。江津塘側といいますか、右岸側といいますか、そちらは以前は人が通れなかったんで、カモが驚かずにそこに避難していました。ポートがあまりいない時に広い水面に出てくるという動きがありました。ところが、今は江津塘側も人が相当歩く状況

になっていまして、見晴らしもいい状況です。鳥だけじゃなく他の生き物もですが、我々人が岸にいて、鳥は多少逃げてもそこにいてくれることがある。ただ、両岸に人がいると他所に行ってしまう。ですので、片方の岸だけならば割と人が活動していてもいいという状況だけれども、両岸は鳥にとっては厳しいようです。特に川幅が狭いところでは片方の岸だけ人が活用し、もう片側は人の気配が見えないようにすると、広い水面のカモの数も大きく回復すると思います。合わせまして、下江津の広木の広い芝生広場から左上の方に江津湖の広い水面が見える場所があります。ここが昔はヨシ原でした。水面は見えなかったんですね。見えなかったのが広木に行っても江津湖という気がしなくて寂しいという状況は確かにあったんです。けれども、ボートの競技は竜ノ鼻から西の方の川が流れる側にゴールしますので、こちらはボートが激しくやる時にはカモがいることができない。その時に、この図で言うと右上の方に避難していました。今、右上は人が非常に見やすくなってしまった。ですので、彼らは江津湖以外に行ってしまう。結果的に江津湖でたくさんのカモを見るのが難しくなっています。「見やすくを追求すると結局なくなる」ということが起きてしまったのが今の江津湖かなと思います。「見づらい部分を作ると、結果的に見やすい部分で見ることができるといえる」ということがある。その辺のバランスのとり方も含めて、ゾーニングの中の目隠しの作り方、ヨシ原でありますとか、そういうことが大事になってくるのかなと思います。(田畑委員)

- なるほど。はい、ありがとうございます。ということは、まず最初の私の「もう少し水面を使ってもいいですか」というのは、そう簡単には「うん」とは言えないよということですね。結構な議論があるなと分かったのが一つですね。(星野部会長)
- 年中、絶対ダメではなくて季節的なものも取れると思いますし、絶対ダメではなく、頻度と人数、その辺の問題もあると思います。(田畑委員)
- なるほど、分かりました。そこら辺は慎重に議論をすることが大事だということですね。あとは、やはり環境保全というのはお話を聞いていると、ディテールが大事というか、これからどうやっていくかというときにも入念な議論が必要ですね。草生やしとけば生きものがあるという訳ではないよとか、そういうことかなと思います。はい、その他どうですか？(星野部会長)
- 健康づくり推進課です。8ページの「取組み項目」の中に②-3 防災・減災機能の強化とありますが、これはもともと江津湖のポテンシャルにそういう防災機能が備わっているということで、公園としてそこを強化していきたいということですか。雨が降ると広木地区はすぐに浸かるイメージがありまして、水を溢れないようにするためにすぐに水浸しになっているようにしているのかなとか思っていたんですけども。それが防災機能を果たしているのか、それとも災害時のために、防災倉庫等が設置されているのか、お聞きしたいと思います。(健康づくり推進課)
- この「防災・減災機能の強化」というのは、確かにおっしゃられた通り、江津湖というのは年に2、3回は浸かるようなところですよ。どちらかというそれは調整池の機能的なものが

あるわけですが、災害の種類から言えば水害については弱いという部分として、そのままの機能を持たず意味合いではありますが、この場合については、震災の時とか地震の時とか災害の種類によっては、ここに水をたくさん汲みに来られた方がいらっしゃるという部分がありますので、特に地震等に関する部分での機能強化ということを図っていきたくて考えています。(事務局)

●その他どうですか。(星野部会長)

●細かいことで申し訳ないんですけども、6 ページの基本方針のところの「生物多様性の保全と人との共存・共生」というところの一番上は保全するということが書いてあって、多分人には十分かもしれないんですけども、再整備とか再生の話を江津湖の場合は特にやっていかないと難しいので、「保全・再生する」という「再生」という言葉をやっぱり入れておいてほしいと思います。下には書いてあるんですけども、上の方の基本方針は結構重要になってくると思いますので、今までも何回か言ったと思うんですけども、是非「再生」という言葉を入れて頂くと、事業展開が図りやすいと思います。(皆川部会長)

●はい、その他どうですか？(星野部会長)

●7 ページにビジターセンターの写真が載っていますが、阿蘇のビジターセンターは立派すぎるから修正したほうがいいと思います。また、先ほどから広木地区についてのお話がありましたが、もしビジターセンターをつくる時に広木地区に持ってくる考えがあるのか、それとも一番再利用が可能かなと思っているのが、植物園の利用なんですけれども、動植物園の植物園をどうにか改善というか再利用というか、そういうのが可能なのかどうか。それがまず一つですね。もう一つはゾーニングのところ湧き出し口の位置が書かれていて、これはとてもいいことだと思うのですが、その場所は実際見ることができるのかどうか、探せばもっとあるかも分からないですね。それと江津塘の左側の江津湖とは関係のないところなんですけれども、江津塘の左側にもそういう場所があるのかどうかですよね。右側にも、江津湖地区以外にそういう湧水地があるならば、書き込むことが有効ではないかなと思います。(奥村委員)

●一つ目のビジターセンターですが、大変すみません。前回ご意見をいただいていたのですが、修正ができていません。ビジターセンターの場所についてですが、ご意見頂きましたように動植物園というのも一つの候補であるとは思っています。今後、いろいろ植物園についてもリニューアルをしていきたくて思っております。そのどこにできるかは、やはりいろいろ調整が要りますので、今の段階ではどこでいきますとは言えない状況です。今後、検討していきたいというところでございます。あと、この湧水のポイントについてですが。(事務局)

●市川会長から頂いた情報ですか。(星野部会長)

●市川会長と一緒に案内していただいて、それを学生が見える部分全ての湧水地点をプロットしているところです。ただ今、さっきお話しいただいた、少し奥の方とかは描ききれいな

いので、是非情報を頂いて加えていきたいと思います。また、多く湧いているのか少ししか湧いていないのかも、まだ表現できていません。(皆川部会長)

●そうですね。あと今言われた庄口もちょっと場所がずれていて戻さないといけないと思いますが、公園区域外のところというのを把握自体はされているのか分かりませんが、そちらの表現についても検討させてください。(事務局)

●はい、ありがとうございます。その他いかがですか？(星野部会長)

●文言とかではないですけども、今いろいろとお話を聞いている中で、江津湖というのは環境を大事にしていけないといけないところを再確認したところです。我々アクティビティ・マネジメント部会としましては江津湖の魅力を高めるために、どうやって活用するかという視点でいろいろ案を出させていただいたところです。中でも8ページについては、例えばバーベキュー・グランピングとかソウさんプール等を使っていくとか、カフェを設置したらどうかとか挙げていますが、そういう案を環境問題について特に考慮せずに出したところだったんですけども、ただ現実的に環境部会の皆様のお話を聞くと非常に難しいところがあるのかなというところを感じたところです。その中で特にちょっとまずいんじゃないかなと思ったのが、バーベキューとかグランピングというところなんですけれども、これはあげてしまうと、おそらく食べ残しをどうするかとか排水・汚水とかをどうするかとか、その辺をちゃんとして地元の方や地元の環境関係の方に理解頂かないと難しいと感じました。カフェとかも、ガラス張りのものでありますと生態系に影響が出るんじゃないのかということもありますのでいろいろバランスの問題とは思いますが、我々の案は現実的に実行可能なのかということをもっと深く考えていけないといけないなと感想として思ったところです。意見ではないんですけども、感想を述べさせていただきました。(藤田委員)

●先程の水上利用と一緒にですね。どちらかと言うとやってほしくないことが書かれているとは思いますが、一方でやはり私たちの立場からすると、ここに遊びに来る人が増える、回数が増える、あるいはいろんな人が来てくれるということが環境の保全、地下水の保全に繋がるためにはそのことも必要で、そういう中にはこういうチャレンジもしたいと、あるいはするべきではないかという立場をとっていますので、先程の水上のものと一緒に入念な計画、先ほどのゴミの問題なんかもちゃんとそこまでしてやらなければいけないとか、そういう事をやっていくしかないのかなと思います。(星野部会長)

●今、お話しがあった、中にある施設のことなんですけれども、今あちこちで観察会やっていて、子どもを連れて夏でも秋でも冬でも行くんですけども、足を洗ったりする場所というのが限られていたりします。できれば、そうした中にある施設の裏側に足洗い場とか、そういうところがあって、子どもがそこで身ぎれいにしてから親と一緒に温かいものを楽しめるとか、そういうアクセスが良くなるような、水に親しみやすいような付帯設備、そうしたものも考えて頂いて、あるいは間伐材を使ったいろんなものもという話がありますから、そうしたもので環境にやさしいような設備になっていただけるとありがたいなと思います。(歌岡委員)

- ありがとうございます。確かに、江津湖にほしいのはこんなカフェではないですね。(星野 部会長)
- まさにその通りだと思います。カフェみたいなものがあったら利用したいと思うんですが、見晴台に飛び出すものではなく、景色の中に、その場所に溶け込むような、そしてそこに入ったら目の前で生きものを見ることができるといい。カモなんか身近で見ようと思ったらすぐ逃げるんですが、屋外から中は見づらい、中から外は見やすいという工夫ができれば、かえって生きものも見やすく、生きものにもそんなにストレスを与えないという作り方があると思います。観察の側からも非常に使いやすいものになるんじゃないか、工夫次第かと思います。(田畑委員)
- はい、ありがとうございます。こういう議論を積み重ねていけば、全国他にない場所、あるいは世界でも珍しい場所を作れるという、実感を私個人としては湧いていっているなと思います。資料2、3に対して、他に何かご意見ございますか？いいですかね。はい、最後に何かございますかと聞きますので、続いて、議題(4)の説明をお願いします。(星野部会長)

～議題(4)の説明～

- はい、ありがとうございます。骨子の内容同様に、どう意見を聞くかということはすごく大事なことになってくると思います。資料4の方法等に関して、「何かこんなことをしたらいいよ」とか追加するアイデアでもいいですし、あるいは、「こういうことをする時にはこのことに注意するといいいよ」というようなことでもいいので、何かご意見というよりもアドバイスになるかもしれませんけれども、何かございましたら。いかがでしょうか？(星野部会長)
- 先程、私の方で、アクティビティ・マネジメント部会の事例について述べさせて頂いた時に申し上げましたけれども、江津湖でどんなことをしたいのかという話をもとに私もアイデアを考えたところです。例えば、意見聴取の場でもどういったことがあったらいいかという話をしたら、おそらく環境面について配慮をせずに、こんなことをやったらいいという意見が多分出てくると思います。説明の際には、この議論の場で、江津湖の環境を守ることを前提として、それを踏まえた上でどういったことをしたいのか、どうありたいのかという話をした方が良いと思います。この協議会の方針とベクトルと合う意見や議論、それに対する反対意見もあると思いますので、その議論を明確化するためには事前に我々の方針、環境面についてしっかり説明する必要があるかなと思いました。(藤田委員)
- はい、ありがとうございます。これも事前の会議で皆川先生のアイデアですけれども、例えば3番の子ども会議なんかオープンで子どもに聞いても実はあんまり意味が無い、遊園地ほしいとか、そんなことを言うだけですので、第1回、第2回というようなセットにして、まず環境を知ってからアイデアを求める、そういうストーリーがいいだろうというふうに考えて。これは皆川先生のアイデアなんですけれどもすごくいいアイデアです。それ以外はち

ちゃんと①、②、⑥、少なくともそれぐらいはそういう姿勢が伝わるのが大事だということですね。その他どうでしょうか。(星野部会長)

- 大人の方、子どもの方、学生もあるみたいですけども、高校生はどうでしょうか。江津湖近郊に江津湖で活動している高校はいっぱいあります。いっぺんに集まるのは難しいかもしれませんが、江津湖で活動していることを聞けば分かると思います。こちらで情報を出せることもありますので、実際に江津湖でいろんなこと調べたり、活動している高校生も入れていただければと思います。(田畑委員)
- はい、⑥の中にそういうチームも入れといてもいいかもしれないですね。学生の中にですね。私はアクティビティ・マネジメント部会なので、④をやるのがすごく大事ななと思っています。本来エリアマネジメントになっていかないといけないとすると、この④がすごく大事。先ほど実は湧水の問題もそういうものの絡みで、何かヒントが出てくるかもしれません。(星野部会長)
- 周辺の湧水地の保全とか、広くいろんなことを知ってもらって、保全の方向性を皆さんが目指していただく場にもなると思います。周辺の住民の、地区の方が入られてますけれども、よく言えるのが地域住民に対して少し細かくやる場合も結構あるかと思うんですけども、ここでは特に予定されていないのでしょうか。過去の環境の状況を詳しい方もたくさんいらっしゃると思うんですけど多分地域の古者の方とかってすごい情報をお持ちだったり、貴重な意見を頂けるチャンスかなと思いました。人が入ってほしくないという意見もある一方でそういう意見ももしかしたら発掘できるんじゃないかなと思いましたので、周辺の住民に対しては特に無いのかあるのか教えて頂ければと思います。(皆川部会長)
- これまでこの江津湖の利活用・保全計画を策定するにあたって、過年度にはなるんですが、いろんな方のご意見を聞いてきているというのがございます。近隣住民の方のご意見もヒアリング等、以前させていただいた部分がございます。その部分がありましたので、今回は回覧板という形でご提案をさせて頂いたというところです。これまでも二十人市民委員会という二十人の市民の方々のアンケートを実施したり、近隣住民の方々、関係団体、今日ご参加の団体の方々とか利用者とか小学生に聞いたところもございますが、そういったところを踏まえて、今回は回覧板ということにしております。そこでちょっと取れていないようなところとかを④とか⑤とか、特に重視をしてやっていきたいと考えています。(事務局)
- 「こういう意見がありましたよ」というところまではオープンになりますよね。過去の意見でこの場が上がってくるのか心配があります。こういう方法で意見聴取して、それで過去の意見に関しては表に上がってくる可能性もあるんですか？(皆川部会長)
- 既に行ったヒアリングというのは、内部的には踏まえられていたとしても、それがちゃんと公表されるのかという心配があるということ、というのも一つあるんですけども、私は骨子レベルだとそんなに入らなくていいのかなと個人的には思っているんですね。(星野部会長)

- 分かりました。どういう状況ですのかなというところが分からなかったところがありましたので。(皆川部会長)
- 近隣住民に対してのヒアリングとかは既に実績があって、それらを踏まえて作られているということを前提として今回の計画の趣旨からすると、やはり新しい人とか、こういうところを重視して、もちろんオープンハウスであるとか回覧板であるとか、実際協議会には地元の自治協議会長さんも入られていますので。(星野部会長)
- 回覧板もあるから、大丈夫ですね。分かりました。(皆川部会長)
- しっかり周知はしているのかなと思いますけれども。(星野部会長)
- 回覧板で一応そういうふうに周知するということですよ。それまでの経緯のところについてはあるかもしれないけれども、骨子については近隣の住民の方も初めてですもんね。それは早い回覧板でということでした。ありがとうございます。(皆川部会長)
- はい、他はどうですか。何か全部含めてでもいいですけども。私言い忘れたのが一点あって、骨子(案)の表紙について、動物園出してもいいですけども、やっぱり江津湖のリアルな環境の写真というか、まず必要だと思うし、単純に言うと2枚の写真はぼやかして動物園はピシャッと入っていると、そういうのも気になるかあるんですけども。やっぱりまず環境部会というか、江津湖の環境というか、これは全体のイメージとは別に、やはり二本立てでやっているということが表紙からもしっかり分かるようなことをもう少し工夫してほしいと思います。あるいは、豊富で清冽な湧水というのがもう少しダイレクトに分かるのか、ちょっと工夫してみてください。他、全体で何かありますか。(星野部会長)
- さっき基本理念で湧水という言葉が入ったというお話しなんですけど、先ほども丸山委員からのお話がありましたように、大地とか人の営みによって形づくられた江津湖とか、何かそういう大切なことが少しでも入ってくるといいと思います。基本理念に湧水を加えたということで、ついでに何かそういったことも加えられるのであれば入れた方がいいと思います。なかなか読んでもらえないかもしれないし、目に見えてこないものは言葉として一言でも工夫して入れておくとよいと思います。もうこの部分は変えられないということも。もし検討の時間がもしあるのであれば、一言そういった言葉があるとよりよくなるのかなと思います。もう少し広がりを持った空間的にも、連続性の話であるとか、そういうことがイメージできるような言葉が一つでも入っていると、公園だけを整備するという感じにはならないと思いました。(皆川部会長)
- はい、検討してください。ただ別の視点で言うと、3行の時点で長いということもあるので。(星野部会長)

●環境部会ではキャッチフレーズみたいなものが、キャッチーなコピーみたいなのがこれにプラスいるよねという話にはなっていて、それはここの部分骨子での議論ではないので、今後出てくる話ではないかと思っています。そういう時に入れるっていうのもいいと思いますし（皆川部会長）

●皆川部会長が言われた部分については、基本理念をきちんと計画書として取りまとめる場合にはこれをただ独り立ちさせるわけではなくて、この中のこういった考え方によって基本理念を定めたかどうか、今までの議論を踏まえたものを入れていくつもりでございますので、その点で触れさせて頂いたらと思います。（事務局）

●他に何かご意見いいですか？大丈夫ですか？

はい、合同部会はこれで終わります。事務局へお返しします。（星野部会長）

以上